

は輕々に看過し、或は冷淡に附し去りて、今日悔恨に堪へざるもの、一にして足らずと雖も、宗教の如きは、之が爲めに風俗を成し、之が爲めに習慣を異にし、人事百般悉く其支配を受けざるもの無く、殊に未開の蠻族、半開の民種に於て、其の關係の著しきを見る。當時頗る奇と感じ珍と觀せし事柄は、歸還後必要に迫られ其の一端を窺へば、何ぞ料らん全く宗教上より來れる結果にして、未だ宗教を知らざる人には頗る奇とし珍とするも、既に宗教を知れる人に在ては、何等の奇も無く珍も無し寧ろ珍とせし以外、奇とせし以外に、眞に奇なり珍なる即ち最も能く觀察せざるべからざる事件の存在せるは、却つて之を逸したるを惜む。寄語す將來未開の地に旅行せむ人は、未開人種の崇奉する宗教の大體を、豫め知得して而して後、實地の觀察に就くを要す、能く此の如くせば其の利益や實に鮮少ならざるべし。

予が本國を出發せんとするに臨み、東京第一衛戍病院附陸軍一等軍醫合田平氏は、大凡彼の地の狀況に鑑み、必要缺くべからざる携帶藥品を配劑して、其の主能用法、注意等に就き左の如く教示せられたり。